



23春闘を働く者のたたかいへと押し上げる秋田地本声明を發出！③

【一部抜粋】

しかし、社友会の意見情報の一部で「**1,000円～3,000円**」という要望が行われ、物価上昇分に固執した表現となっている。社員の多くがベースアップを切望しているにも関わらず、社友会が低額相場をつくっているとんでも過言ではない。

組合員と家族の生活水準向上と、働く意欲を繋げ、23春闘を働く者のたたかいへと押し上げる秋田地本声明

2月7日に開催したJR東労組第49回定期中央委員会において、定期昇給「係数4」、ベースアップ10,000円（物価上昇分・生活向上分含む）の要求を決定した。相次ぐ食品の値上げや燃料費の高騰などにより、組合員の生活は苦しくなる一方であり、さらに労働強度が増すことにより、働くことに比重が増え、「ゆとりを確保」といった余裕が失われつつある。「定期昇給2カット」「期末手当の減額」は物価が高騰した今、組合員の生活に大きな影響をもたらしている。このような組合員の生活を改善するために、労働者間の連帯と共闘を掲げ、「統一要求・統一闘争」を掲げ、連合行動による賃上げ相当分3%要求に、生活向上分をプラスとして追加、統一ベース要求としてたたかいをつくり出していく。要求額に対する「高い・低い」の議論ではなく、組合員の声に表れているのが重要である。春闘生活闘争（高闘）は、個別に一企業一労働組合では十分なたたかう力がないため、同時に共にたたかう相連帯運動が高よりとする闘争形態が春闘である。重要なことは早期の弱い労働者が統一要求を掲げ連帯運動を展開していくことにある。

賃金は、基本的に労働力の再生産費が含まれていることから、労働移動（年功型）のみならず、家族構成（扶養手当）や働いている場所（都市手当）など多様な要素が取り入れられている。機械化の進展し、業務が効率化されている一方で、短期でできる期間に年々必要業務内容が増えるなど労働強度が増しているのが現状である。このような状況だからこそ、自らの労働力を高く売るためのたたかいをつくり出していかなければならない。

しかし、社友会の意見情報の一部で「1,000円～3,000円」という要望が行われ、物価上昇分に固執した表現となっている。社員が多くベースアップを切望しているにも関わらず、社友会が低額相場をつくっているとんでも過言ではない。

社会情勢を見ると、多くの企業が軒並み「賃上げムード」をつくり出している中、JR東日本の経営状況は第3四半期決算を振り返ると、他産業よりも顕著な流れが現れる秋田であるが、組合員・社員の側面により業績の改善に貢献してきた。そのような中で、会社は人財確保の観点から入社4年目までの社員に初任給増額を提案して、当面の間支給する考えを示し、労働組合が要求する前の人材確保のための一歩を踏み出した。秋田地区ではまだ実現できていない。

「あまた」JR東労組秋田地本は、組合員の声を要求へ高め、会社と議論することを通じて、「自分だけ上げればいい」「上げれば良い」「買えばいい」などといった考えを見つめ直し、同じ会社で働く者の労働条件と賃金の向上のため、一丸となって運動をつくり出していく。23春闘を通じて、年功賃金とは何か？会社がどうに変わっていくのか？私たちの賃金はどうあるべきか？を議論し、組合員・家族にとって「ゆとりと豊かさ」を実現させる。実践した生活を糧に安全で安心して働くことができる職場環境をつくり出すために奮闘する決意である。

23春闘の勝利は掲げた要求実現に向けてひとりでも多くの労働者が団結し協力することである。全組合員で東労組の組織強化・拡大を実現しよう！

2023年2月17日

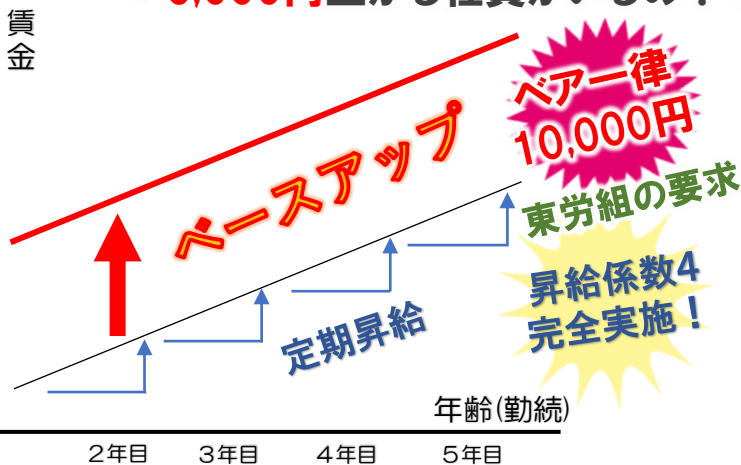
東日本旅客鉄道労働組合
秋田地方本部
執行委員会

本当に1,000円～3,000円でいいの！？



～ということは…

1,000円上がる社員と、3,000円上がる社員がいるの！？



3,000円でも足りないんですけど…



東労組組合員が職場で聞いた社友会員の声は…

そもそも…いくら賃上げ必要が聞かれてませんけど！勝手に低く要望しないで



この会社に将来は見込めない。転職するしかないのかなあ…



東労組へ結集し 共にたたかおう！

社友会の皆さん！

仕事を通じた「達成感」「やりがい」だけで生活は豊かになりますか！？
社友会は低額相場形成のために利用されているのではないですか？